

令和6年度 江戸川区立平井東小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎考える子ども ・助け合う子ども ・じょうぶな子ども ・進んで取り組む子ども	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・子供たちが「生き生きとした表情で生活する」学校 ～笑顔で登校、笑顔で下校～ ・「人にやさしく 自分につよく 明るく元気な」ひがしっ子 ・児童一人一人の心に寄り添う教師 ・自らの資質能力を高めることができる教師
前年度までの本校の現状	成果 ・校内研究を通して、自分の考えをもって学習に取り組む児童が増えた。 ・教科担任制や外部講師を招いた授業を展開することで、学習の深まりや豊かな心を育成することができた。 ・教員間による自己研修の時間を設け、進んで資質や能力を高めることができた。	課題	・「特別支援教育」を充実させ、支援を要する児童の支援や指導の体制を見直し、教職員で共通理解をはかる。 ・ICT機器を用いた更なる授業展開の工夫を行う。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得	・学研による放課後補習教室の実施（各学年週1回、年間150回以上） ・Study weekにおけるドリルパークの活用	・放課後補習教室への登録率95%以上 ・ドリルパークの活用率90%以上	B		B	・補習教室への登録率は90%以上だった。保護者と連携し、入れ替えがある2学期は95%以上になるよう呼びかける。 ・Study week期間では、全学年85%以上がドリルパークを活用できた。	B	・どの学年でも放課後補習教室を進んで利用している。今後の成果にも期待したい。					
	○家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取り組みの実施・充実	・毎週水曜日10分間の朝学習の全校実施（高学年における、よむYOMUワークシートの活用）	・児童アンケートで80%以上が学習意欲や読解力が高まったと回答	A		B	・全学年において学習意欲が高まったと回答した児童は80%以上となった。2学期以降は90%以上を目指し、学習活動を工夫していく。	B	・子供たち様々な学習に取り組んでいる。今後も子供たちの意欲を高める学習を期待している。					
	○読書科の更なる充実	・探究的学習を全学年学期1単元以上を実施 ・読書郵便の作成	・巡回司書と連携した授業を学期に1単元実施 ・読書郵便を読書月間に合わせて年に2回作成	B		A	・全学年、巡回司書と連携した学習を実施。2学期はさらに内容を深めていく。 ・1学期末の「あさがお読書月間」に合わせた読書郵便の作成を全学年実施した。2学期末に2回目の読書郵便を作成する予定である。	A	・図書ボランティアや巡回司書を協力しながら整備された環境になっている。					
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・学期に1回のなわ跳び週間の設定 ・校内なわ跳びギネスの実施	・なわ跳び週間への全校児童参加 ・なわ跳びギネスへ3回以上の参加	B		A	・学年で実施時間を割り振ったことで、全校児童が参加できた。 ・なわ跳びギネスでは、全校児童が1回以上実施した。2学期と3学期にそれぞれ1回ずつ実施し、年間3回以上の参加を目指す。	A	・なわ跳びギネスはとても面白い取り組みだと感じる。今後も運動に意欲的に参加してほしい。					
	○運動意欲や基礎体力の向上	・業間休みを活用した運動遊びの実施	・火曜日を中心に学期に5回～8回程度実施	B		B	・なわ跳び週間を行ったこともあり、運動遊びは全学年4回となった。2学期は7回実施の予定である。	B	・運動をする習慣が身についている。子供の体力向上に努めようとしていることが分かる。					
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員との連携	・特別支援専門員による各学級の支援（適宜）	A		A	・特別支援教室専門員を中心に、巡回指導員やSC、心理士等と連携した指導を行うことができた。日本語指導においては、児童の日本語の上達が見られ、指導が進んでいることが分かる。	A	・SCや専門員が連携して子供たちの様子を見ていることが分かる。					
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・副籍交流の実施 ・年間指導計画に基づいた特別支援学級との交流及び共同学習の実施	・年に2回の副籍交流 ・3年生を中心に年に5回程度、特別支援学級との交流学習を実施	B		B	・2学期以降に行う副籍交流の日程は調整済みである。副籍校と都度連携を取り、調整していく。 ・2学期から特別支援学級との交流学習を年間指導計画に基づいて進めていく予定である。	A	・副籍交流やひまわり学級と共同学習など、さまざまな交流が設けられていてよい。					
不登校・いじめ対応の充実	○Hyper-QUの活用	・QUテストによる児童の実態把握と指導の推進 ・QUテストの有効的な活用方法の共通理解	・1学期中にQUテストを実施 ・OJTによる活用方法の研修	B		B	・全学年、1学期にQUテストを実施した。2学期はその結果をもとに各学級担任が学級経営や児童への指導に生かしていく。 ・QU活用方法についてのOJTを2学期に実施する予定である。	B	・さまざまな環境の児童が増えてきたように思う。たくさんの先生方の目で見守ってほしい。					
	○不登校対策の実施・充実	・いじめや不登校の早期発見 ・解消件数の増加（早期解消を目指す）	・年3回のアンケートの実施 ・学期1度の生活指導全体会の実施	B		B	・1学期にアンケートを実施し、不登校やいじめの早期発見に努めた。 ・生活指導全体会を通して、個別に配慮が必要な児童への対応について全職員で共通理解することができた。今後の指導に生かしていく。	B	・児童にとって安心して生活できる環境を今後も整えていってほしい。					
	○教育相談の強化	・SC、SSWとの連携強化	・特別支援校内委員会の月1回の実施	A		A	・月1回、特別支援コーディネーターを中心に特別支援校内委員会を実施している。個別に配慮が必要な児童への対応について都度連携している。	A	・児童一人ひとりにきめ細かくみてもらい、感謝している。					
地域社会に開かれた学校の実現	○自校の取り組みの積極的な発信	・学校ホームページの充実、学校公開の実施・充実	・各学年、月に1回程度、行事を中心に配信	B		B	・学年によって配信の頻度に差がある。今後は、担当を決め、月に1回程度配信できるようにする。また、行事担当が配信をするよう周知し、呼びかけていく。	B	・学校ホームページは頻りに更新されており、児童の様子がよく分かる。今後も継続してほしい。					
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・年4回の土曜公開や各行事後にアンケートを実施	B		B	・Formsを使用して学校公開や学校行事後にアンケートを実施した。今後はアンケートの回答数が増加するようtetoruにて保護者に呼びかけていく。	B	・Formsを用いたことで回答しやすくなったと思う。一方で、回答数を増やしてほしい。					
特色ある教育の展開	○環境教育の推進	・年間計画に基づく荒川環境学習、外部講師の活用	・学期に1度程度、4年生を中心に荒川学習を実施	B		A	・1学期には荒川学習（干潟の環境・生き物）を1回実施することができた。2学期は荒川の順巻の生き物。3学期にはクリーンエイドについて学習する予定である。	A	・外部講師を招いて学ぶことができる機会があることはとてもよい。					
	○働き方改革の推進	・定時退勤日の設定	・区小教研の日、それ以外に月1回程度の定時退勤日の設定	B		B	・区小教研の日は定時退勤日にし、実施することができた。また、月に1回程度、水曜日に定時退勤日を設けている。2学期以降も実施する予定である。	B	・定時退勤日の設定はとてもよい。意識して今後も継続してほしい。					
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・年に2回程度の授業公開 ・年に10回程度のOJTの活用	B		B	・校内研究や自己申告における授業を互いに公開し、自己研鑽に励んでいる。 ・OJTは計画的に進められている。自分たちで学びたい内容を精選し、現在2回終了している。2学期は4回行う予定である。	B	・互いに学び合おうとする機会があることはとてもよい。子供たちの教育に生かしてほしい。					